

科目名	公民 I Civics I			担当教員	田口 淳		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13120014	単位区分	履修単位
学習目標	心理学を通して人間に対する理解を深めるとともに、先哲の思想を学ぶ中で、社会人としての人生観・世界観・価値観の形成を目標とする。						
進め方	講義形式を基本とする。要点は板書もしくはプリントを配布しながら進めていく。 適宜、簡単な心理テストの実施、また討論や視聴覚教材を通して、各自の思索が深まるようにする。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	0. 「倫理」とは？(2) 1. 青年期の課題と自己形成 (1) 青年期の意義(6) (2) 青年期の課題と生き方(6) ----- [前期中間試験](2)			倫理社会で何を学ぶのかが理解できる。 青年期の特徴を理解するとともに、青年期に生きる自分自身の課題を明確にすることができる。 学習・教育目標：(A)			
	*試験返却・解説(1) 2. 人間としての自覚 (1) 哲学と人間 ・哲学すること(1) ・哲学の動機(2) ・ギリシャの思想(10) 自然哲学者、ソフィスト、ソクラテス、 プラトン、アリストテレス、エピクロス ゼノン			哲学することの意義が理解できる。 哲学の定義及び動機について理解できる。 理性を重視した古代ギリシャの哲学思想・倫理思想の基本的な内容が理解できる。 学習・教育目標：(A)			
	前期末試験 *試験返却・解説(1) ・中国の思想(5) 諸子百家、孔子、孟子、荀子、老子 荘子、朱子、王陽明 (2) 宗教と人間 ・宗教とは？(1) ・ユダヤ教(2) ・キリスト教(5) ----- [後期中間試験](2)			中国古代の思想の流れと基本的な倫理観が理解できる。 宗教の本来のあり方や必要性が理解できる。 ユダヤ教・キリスト教の基本的な教義及び倫理観が理解できる。 学習・教育目標：(A)			
	*試験返却・解説(1) ・イスラーム(3) ・バラモン教(2) ・仏教(8)			イスラーム、バラモン教、仏教の基本的な教義及び倫理観が理解できる。 学習・教育目標：(A)			
	後期末試験 試験返却・解説(1)						
評価方法	評価の内訳は、レポートの提出状況 10%、定期試験 90%とする。 四半期ごとの全体評価への重みは、すべて各 25%ずつとする。						
履修要件	特になし						
関連科目	歴史Ⅰ（1年）→ 歴史Ⅱ（2年）→ 公民Ⅰ（2年）→ 人文科学Ⅱ（4年）						
教材	教科書：平木幸二郎 他著『倫理』 東京書籍						
備考	担当教員への連絡先 TEL：087-869-3842, E-mail：taguchi@t.kagawa-nct.ac.jp						